

四門会

第17号



聖マリアンナ医科大学
耳鼻咽喉科学教室同門会

目次

巻頭言

2009年を振り返って	教授 肥塚 泉	2
-------------	---------	---

ご挨拶

平成21年度医局長挨拶	医局長 宮本 康裕	3
平成21年度医局員勤務状況		4
平成21年度耳鼻咽喉科外来予定表		5

追悼 一荻野洋一名誉教授一

荻野 洋一名誉教授を悼みて	名誉教授 竹山 勇	6
安らかにお眠り下さい、荻野先生	客員教授 加藤 功	7
荻野洋一先生を偲んで	岡田 智幸	8
荻野洋一先生を偲んで	芋川耳鼻咽喉科クリニック 芋川 英紀	9

大学院生便り

大学院生便り	深澤 雅彦	10
大学院3年生	三上 公志	11

近況報告

親愛なるマリアンナの皆様へ	いぬかい耳鼻咽喉科クリニック 犬飼 賢也	12
開業医となって	希望ヶ丘耳鼻咽喉科 小宅 大輔	13

医局便り

スキューバダイビングと耳鼻咽喉科	北島耳鼻咽喉科医院 北島 明美	14
医局便り	横浜総合病院 平野 佳美	15

OB通信

私の履歴	井澤耳鼻咽喉科医院 小松崎 靖	16
近況報告	西野耳鼻咽喉科 西野 裕仁	18
ナゴヤより愛を込めて	服部耳鼻咽喉科医院 服部 康介	19

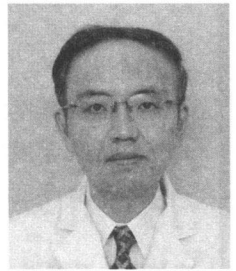
新入医局員紹介	齋藤 善光	20
---------	-------	----

同門会会則		21
-------	--	----

第12回理事会議事録		23
------------	--	----

編集後記	岡田 智幸	24
------	-------	----

2009年を振り返って



肥塚 泉

私にとって、今年のキーワードは“政権交代”、“新型インフルエンザ”、“超大型台風”の3語に尽きる。これまで長きにわたって政権を担当してきた自民党に代わって、民主党が日本の政治を担当することとなった。衆議院解散後の総選挙では、ほとんどの国民が“なにか違うもの”を求めて、それこそ“はやり病”のように政権交代を簡単に実現してしまった。新型インフルエンザも文字通り、日本はもとより世界中で猛威をふるっている。台風18号が愛知県から上陸して、日本列島を縦断して、各地で大風を吹かせて猛威をふるったことはいまだ、記憶に生々しい。

今、私たちの医局では、“開業病”という、とても厄介な感染症が蔓延しつつある。この感染症の感染経路は定かではないが、今着実に医局内で、“超大型台風”のように猛威をふるい始めている。「開業をすれば、収入アップは確実かつ、夜中まで安月給であくせく働くことがなくなり、奥さんや子供さんたちにはきっと喜んでいただけますよ」。最近学会に行くと会場内の機器展示場で、いわゆる“開業屋”から声をかけられることが多くなった。ま

た自宅には、開業の魅力とノウハウを満載したパンフレットがダイレクトメールでたくさん届くようになった。きっと中年のおじさんが疲れきった顔で、機器展示場を歩き回っているせいなのかもしれない。勤務医の過重労働が最近やっと、マスコミで取り沙汰されるようになった。しかし残念ながらその具体的な解決策については、まったく見えてこないというのが実情である。残念ながら、社会も大学も我々を見捨てているのではないのかと思わざるを得ない。こんな悪環境の下で、医学の真理を追究するなんて余裕は、絶対に生まれてこない。この悪環境が、この厄介な“はやり病”が蔓延する温床になったとしか思えない。この悪環境を如何に改善すればよいのであろうか、具体的な方策を模索する悩ましい日々が続いている。

残念ながら今年の巻頭言は、時期的なこともあり、暗い話題でしか書くことができなかった。来年の巻頭言は、明るい話題をちりばめた、楽しい内容になることを祈念して、本年度の巻頭言とさせていただきます。

平成21年度医局長挨拶

医局長 宮本 康裕

新型インフルエンザが猛威をふるっておりますが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。平成21年度の耳鼻咽喉科教室の医局長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。宮本康裕です。

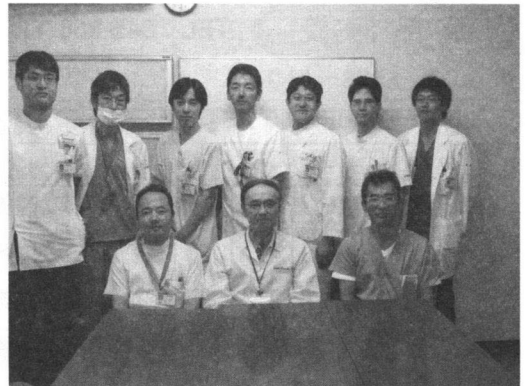
学生時代（20回生）は柔道部に在籍し、平成8年に耳鼻咽喉科教室に入局しました。以降は、斉生会川口病院、秦野赤十字病院、西部病院、共立蒲原総合病院に赴任し、3年前に大学に戻ってきました。

自分が大学に在籍していたころと現在を比較しますと、圧倒的に医局員の人員が減少していることを痛切に感じました。そこで、ここ数年の医局員の動向について調べてみますと過去8年において退職者（28名+今年度退職者）が新入医局員（6名+来年度新入医局員）を圧倒的に上回っており、常勤病院への派遣の中止（本年度で7施設）も増加の一途をたどっています。

また医局員の平均年齢の上昇もあり、現在川崎市北部地区において365日夜間急患センターの当直業務を行っていますが、現状維持はかなり厳しいと言わざるを得ません。医局員獲得のための努力もこれからも継続的に行っていきたく考えておりますが、なかなか結実しないところもあります。是非OBの先生方にも、医局員の負担軽減のためのアイデアをいただきたいと思っています。今後の医局の将来のため皆様のご協力をお願いする次第であります。

今後も皆様のご健康とご活躍を心より祈念し挨拶とさせていただきます。

平成21年10月



本院写真

耳鼻咽喉科外来担当表 平成21年11月現在

■ = 専門外来等、()内の数字は何週目かを示す

午	初診	月	火	水	木	金	土
		肥塚 渡辺 佐々木	俵道 ■ 黒田	高津	高津	高橋	桑原
前	再来	宮本 三上	高津 三上	桑原 及川	佐々木 俵道	大塚 向出	向出 及川
	特殊	中耳 顔面神経	頭頸部 腫瘍	喉頭 音声	喉頭 音声	めまい 腫瘍	
		俵道 高橋	渡辺 大塚 及川	宮本 向出 ■ 信清 赤澤	岩武(1,3)	肥塚 高橋 三上	渡辺
病棟 当番	向出	佐々木	三上	宮本	及川	高津	

午	後			鼻・副鼻腔 アレルギー	聴覚
					桑原 宮本 ■ 宮部(2,4)
	めまい 検査	高橋	及川		
	救急 当番	高津	三上	及川	高橋 向出

西部病院

TEL : 045-366-1111 FAX : 045-366-1190

■ = 専門外来等、()内の数字は何週目かを示す

耳鼻咽喉科							
午	前	月	火	水	木	金	土
		岡田 智幸 矢野 裕之 春日井 滋	岡田 智幸 春日井 滋 齋藤 善光	岡田 智幸 矢野 裕之 芋川英紀(3,4)	岡田 智幸 矢野 裕之 春日井 滋	岡田 智幸 矢野 裕之 春日井 滋	矢野 裕之 春日井 滋
午	後	■ 中央手術	■ 中央手術	■ 中央手術	佐藤成樹(2,5) ■ 鈕持 睦(1,3)	■ 検査	

多摩病院

TEL : 044-933-8111 FAX : 044-930-5181

耳鼻咽喉科						
	月	火	水	木	金	土
午 前	岡本 充史 中村 学	堤 康一朗 岡本 充史	岡本 充史 中村 学	手術	堤 康一朗 中村 学	交代で1診 (初診)
午 後				手術		

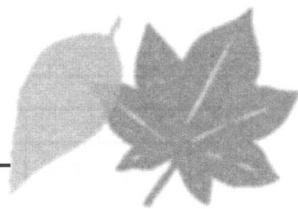
関連病院

平成21年11月現在

西部病院	岡田 智幸 矢野 裕之 春日井 滋 齋藤 善光	TEL 045-366-1111 FAX 045-366-1190
多摩病院	堤 康一朗 中村 学 岡本 充史	TEL 044-933-8111 FAX 044-930-5181
麻生病院	黒田 寿史	TEL 044-987-2522 FAX 044-988-0878
聖ヨゼフ病院	杉山 裕	TEL 046-822-2134 FAX 046-822-3134
水戸済生会総合病院	田中 泰彦 齋藤 晋	TEL 029-254-5151 FAX 029-254-9099
横浜総合病院	赤澤 吉弘 平野 佳美(産休中) 山口 央一	TEL 045-902-0001 FAX 045-903-3098
秦野赤十字病院	鈴木 一輝	TEL 0463-81-3721 FAX 0463-82-4416
高津中央病院	信清 重典 島田 園子	TEL 044-822-6121 FAX 044-822-7995
癌研有明病院	新橋 涉	TEL 03-3520-0111 FAX 03-3570-0343

追悼

— 荻野洋一先生 —



荻野 洋一名誉教授を悼みて

竹山 勇

荻野先生は新潟時代から御指導を戴いた大先輩であり、多くのことを学ぶことが出来ました。

先生が昭和四十六年から聖マリアンナ医大に來られ新設医科大学の進むべき方向づけをされた当初の御苦労は大変だったものと思われます。私が五十一年に赴任しましたときは大
学病院の副院長として多方面に活躍しておられました。

教授会においても是々非を論ぜられ了大の先生が多い中で煙たがれていましたが偉大な存在でした。

本年三月、突然の訃報に接し驚きと共に限りなき淋しさを覚えました。心から御冥福をお祈りします。

数々の功績を残せし 先達の

栄光は永遠に とどめおかまし

秀ぐれたる知力をかざし 大学に

尽せし業績 とわに輝く

合掌

安らかにお眠り下さい、荻野先生

加藤 功

私が学生時代、荻野助教授の講義を聞いた途端、良く分かる、心の通った講義だと感心したものです。それが回りまわって耳鼻科に入ってみるとその頃の講師、助教授先生達は雲の上の存在で完璧な方達でした。

新人3人共々主治医について、外来、病棟治療、手術とウンテンとして勿論一番下でやるようになったら、“本を読んできたか、鉤引きの手の固定が悪い、糸きりが不揃いだ、遅い” など怒られ、ますますビビルようになったものです。中でも荻野先生はアメリカから帰ったばかりで、兎唇を中心に形成手術をやっておられました。我々新人は年5～6回しか手術をご一緒する機会はありませんでしたが皮膚切開の上手さ、止血操作、中縫い、仕上げの皮膚縫合とすべてに早く、完璧で凡人をして美的センスがないと形成外科は勤まらないなと悟られたものです。

何といっても圧巻は日本にはまだない4-0ナイロン糸をつかって皮膚縫合を行い、ミラード法による手術をされていた事で“赤唇を完全に一致させて皮膚縫合は軽く縫うのがポイントだよ”と言われたことがあります。“分からなかったら本を読んで先輩に聞けば良いし、症例が集まったり、又これぞと思う考えが浮かんだら論文にすると自分に言い聞かせていれば立派な臨床家になるぞ”とも言われたものです。凡人は時に思い出し自分の不甲斐なさを恥じ入り、そしていつの間にか忘れ、次に進んでいったのでした。

荻野先生は昭和45年仙台の日耳鼻総会で宿題報告をされた後、昭和46年に東洋医科大学耳鼻科教授として栄転されました。私は昭和51年に新設された山形大学医学部に小池教授の助教授として10年間生活しましたが縁は異なるもの、その後、竹山先生のご厚意により聖マリアンナ医大に来る事になりました。聖マリアンナ行きが決まっていたある日、荻野先生からお電話をいただき“どうだ僕の言う通りだっただろう、おめでとう、今後は聖マリアンナ医大のために尽力してくれ”と言われた事を思い出します。

先生とは距離のある師弟関係としてお言葉をいただきました。勿論全てではありませんが、心は先生のお言葉の方を見ておりましたから今日の私があると思っています。

先生、どうぞ安らかにお眠り下さい。



萩野洋一先生を偲んで

岡田 智幸

去る3月4日くしくも耳の日の次の日に、訃報が大学附属4病院を駆け巡った。

我が耳鼻咽喉科学教室の初代主任教授である萩野洋一名誉教授が本院救命センターに救急搬送され、そのまま永眠された。本院で、3度目の心臓ペースメーカーを交換され、順調に退院された矢先の出来事であった。昭和60年に心臓発作で倒れ、三枝ブロックにも関わらず、術後奇跡のカムバック、不死身とも呼ばれ、ヘビースモーカーというよりチェンスモーカーの先生がその後あっさりとタバコをやめられ、健康に留意されていたが、残念である。

萩野先生は、8回生（昭和59年卒）の岩武、上杉、佐藤、岡田にとっては、学生時代から形成外科学主任教授そして学年担当教授として、日頃より「将来は耳鼻科がいい、私の学位論文はラミナリア桿を用いた実験的聴神経腫瘍の神経耳科学的研究だ」と大学院時代の苦労話を少年のようないきいきとした眼差しでお話いただいたのを思い出す（息子の純先生（6回生）も耳鼻科を開業）。

萩野先生は、昭和46年東洋医科大学（現聖マリアンナ医科大学）が認可された際の第一号の教授で、大学附属病院（本院）が建設される以前に旧東横病院に招聘されたと聞く。本院と医学部本館が完成後、当時の耳鼻咽喉科主任教授室は、教授室の中で最大の広さだったそうである。先生の凄腕は、加藤先生、芋川先生の追悼文のようにオベばかりでなく、学生面談の際中でも、ひっきりなしに連絡の入る、当時の有名政治家との患者紹介のやりとり（当時小耳症の手術予定は3年後まで一杯であった）、文字通り政治的にも発揮されていたようである。

萩野先生は、竹山名誉教授の追悼にもあるように、新潟大学出身ではあるが、新設医大である本学（マリアンナは...、マリアンナを...と連呼していらした）をいかに発展させるべきか、その方向性はいかにと内外を問わず奔走されていた真摯で実直なお姿も脳裏に浮かぶ。

退任後の萩野先生は、医局に、外来に、突然現れ、「患者の目線で診療をするよう」注意喚起しておられた。また、「患者さんは一生診ていく、相談にのる」そして「一度患者を担当したら自分の領域の訴えでなかったら、専門家を紹介できるネットワークを持つように」とも言っておられた。「名誉教授の萩野だが。患者さんの〇〇さんを診てくれないか」という先生の電話の声が今でも耳底に残る。

萩野先生のご冥福をお祈りします。

荻野洋一先生を偲んで

芋川 英紀

私は耳鼻咽喉科入局後、当時主任教授で盛んに手術をされておられた竹山教授の実に見事な手術手技にまず心から驚嘆致しました。また先輩諸先生方の頭頸部領域の多くの手術手技に接し、同領域の再建手術習得の必要性を強く感じました。そこで竹山教授に相談し、誠に心広いご理解をいただき、しばらくの間、荻野洋一教授のおられる形成外科医局に向いておりました。荻野先生の手術や外来診療に対する態度は静謐でかつ厳しく、その熱意は医師としての強い社会的な責務を感じました。

また手術手技の見事さを見る者を引き込む魅力を持ち、手術所作には無駄がなく外科手術の神髄に迫る気迫がありました。もちろん手術の結果も素晴らしいものでした。そして荻野先生の指導の厳しさは中途半端なものではありませんでした。手術器具の並べ方、持ち方、メスの角度など手術操作には特に厳しく、妥協なき厳しい指導を思い出します。「外科手術とはそもそも人様の生身の体を切り刻む行為であり、医師という特別な立場ではあるが、中途半端な気持ちや態度で手術を為してはいけない」という尊い持論による指導を事あるごとに申され

ていたことが印象に残っております。

しかし普段の荻野先生はにこやかで、ユーモアとウィットを交えた会話で医局員との良き関係を保つことを努力されておられたことも印象的でした。

北原白秋作詞の昔の歌に「天に二つの陽は照らず凌ぐはなんぞ……」という作品がございます。しかしこと私の心にはいつも二つの太陽が輝き、医師としての目標として存在しておりました。一つの太陽は竹山先生でありもう一つの太陽は荻野先生でした。一つの太陽を失うことは非常に悲しいことです。しかし私の心の中で荻野先生の素晴らしい笑顔が消えることはありません。またもう一つの太陽である竹山先生は確固たる存在感として燦然と輝いております。人間としてそして医師として良き指導者に恵まれたことを、この場に及び再びながら心から幸運に思うとともに、荻野先生の逝去に心からの哀悼の意とご冥福をお祈りいたします。

荻野先生、長い間ご苦勞様でした。荻野先生の恩恵を受けた多くの患者さんは、決して荻野先生を忘れません。どうぞごゆっくり心安らかにお休みください。

大学院生便り

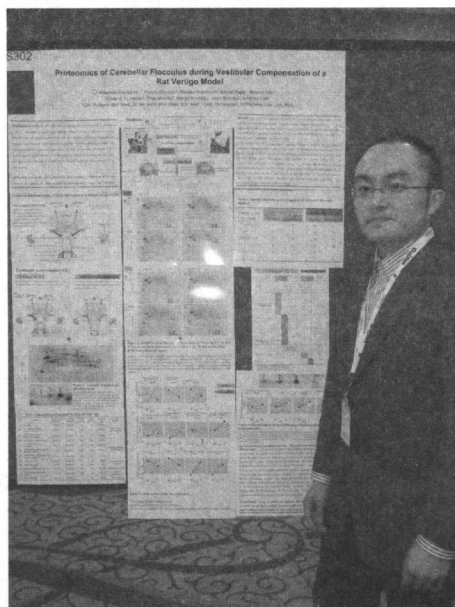
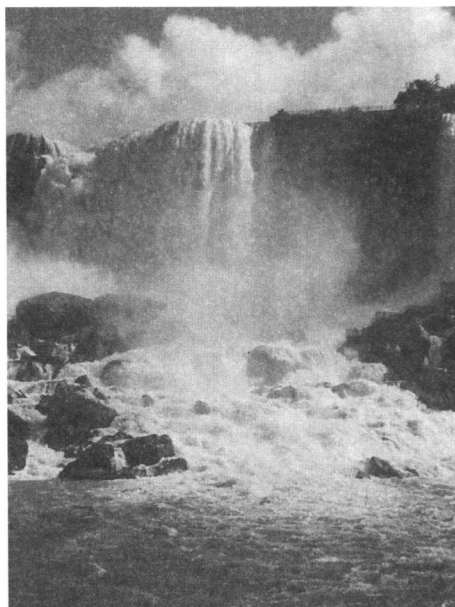
大学院生便り

大学院4年生 深澤 雅彦

私は、今年度にて大学院生活も終了となります。現在学位論文を投稿中で、不慣れな英文作成、editor、reviewerとのやり取りに悪戦苦闘しております。

今回、9月28日～30日にTorontoにて開催されましたHUPO(Human Proteome Organisation)2009 World Congressに参加させていただきました。『Proteomics of Cerebellar Flocculus during Vestibular Compensation of A Rat Vertigo Model』というタイトルで演題投稿し、その内容につきましては、現在投稿中の論文がacceptされ、先生方にみていただける日が来ることを、切に願っております。

実験につきましては、前庭代償時に小脳片葉タンパク質から同定されましたタンパク質の機能解析を継続中で、同定されたタンパク質の小脳片葉における免疫染色、ならびに、その翻訳後修飾が前庭代償に関与していることが示唆されたタンパク質の、翻訳後修飾の解明などを行っております。



大学院3年生

大学院3年生 三上 公志

医局におきましては、本年待望の入局者が1名、齋藤善光先生が新しく加わり、久しぶりに明るい話題も出始めましたが、医局員が少ないという大きな問題はあいも変わらず抱えております。そんな中、初めての国際学会を経験させていただき、肥塚教授をはじめ、大学院生の指導を担当してくださった中村学先生ならびに、日々の臨床を支えてくださっている諸先輩方々及び後輩医局員の皆様には大変感謝しております。この場を借りて深く御礼申し上げます。

またOBの先生方におかれましては、引き続き医局員一同、温かく見守っていただくとともに、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いたします。

大学院3年生の三上公志です。皆様のご協力により、めまい平衡医学会誌の *Equilibrium Research* に論文を掲載することができました。この文面をお借りしてお礼申し上げます。

一区切りつき、ほっとしながら、大学院生として現在も実験を続けさせていただいております。実験内容としては以前と同様に、回転椅子を用いながら体性感覚を刺激することを行っており、今までは肩の部分に刺激していたのですが、現在は腹部を刺激するようにしております。なかなか実験がうまくいかず、自分が考えているように行うことが難しいと痛感するなか、肥塚先生を始め、秦野赤十字病院から遠いところわざわざ来てくださる鈴木先生など周りの先生方に助けていただきながら、諸先生方に負けないようこれからも精一杯頑張りたいと思います。

未熟者ですが、今後ともご指導・ご鞭撻の程よろしくお願いたします。

親愛なる
マリアンナの皆様へ

いぬかい耳鼻咽喉科クリニック 犬飼 賢也

平成21年4月に新潟市北区に開業しました。開業を目標としてきて、遂にこのように形にできたことで、充実し、満足の毎日を過ごしています。

わが医院は、あえて県内の作家さんや素材を使用することにこだわりました。その中で、待合室や中待合室に飾られているステンドグラスは、偶然新潟県の声楽家の方に心にとめていただき、CDジャケットに使っていただきました。何かのご縁とはいえ、とても嬉しくCDを眺めています。ステンドグラスを飾っている医院はなかなかないように感じますが、開業すると決め、その計画を進める中で、「医院らしくなくてはいいいのでは」と感じ、じゃあ何がいいのか?と考えましたが、診察エリアは私で、その他のスペースは妻で、と役割分担し、また、意見交換していきながら今の形に収まりました。

妻は患者視点だったため、過ごしやすさや面白さを求めた結果、ガラス、絵、随所に置かれている犬グッズなど(犬飼だけに)、“何かしら面白いもの”を医院内に置いています。もしこちらにお越しの際はどのようなものがある

かを探すのも楽しいと思います。また、診察室では私のこだわりがあり、導線や効率をとにかく考え、大変満足できる設計だと実感しています。

視点の違う者同士で一つの形を作っていくという事は、大変刺激になったり新たな発見があったりで、なかなかない経験でした。

長い転勤生活を終え、ふと以前を振り返ると、出張する先々で本当に良い経験をしたと実感することがあります。中でも、マリアンナ医科大学での研修で得た知識や経験、肥塚教授や医局員の皆様との出会い、毎年の海外学会への参加など、密度の濃く、忘れがたい思い出です。今現在も研究員として籍を置かせていただいているお陰で、変わりなく研究面でもフォローしていただき、有難うございます。

今後とも宜しくお願い致します。

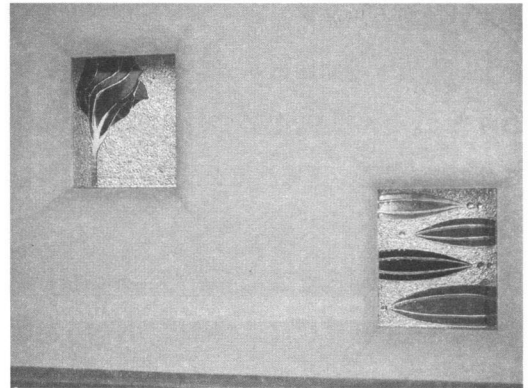


写真2 ステンドグラス



写真1 看板と建物

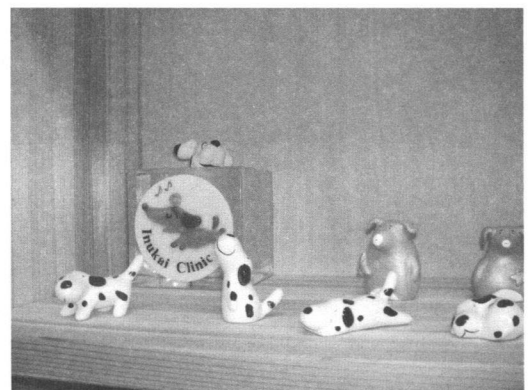


写真3 院内の置物



写真4 診察室



写真5 モニュメントと私

開業医となって

希望ヶ丘耳鼻咽喉科 小宅 大輔

平成21年3月31日をもって医局を退職し、相鉄線希望ヶ丘駅前に希望ヶ丘耳鼻咽喉科を開院いたしました。3月31日ギリギリまで外来・手術があり、開業準備は1週間ぐらいだったため、かなりドタバタしました。しかし最後まで大学の仕事を全うしたため、開業医として直ぐに心を切り替えることができたと思います。

病院の方は、3年間勤務した西部病院の近くであったせい、開院当日から多くの患者さんに来て頂き、あまり不安を感じずに毎日楽しく仕事できております。最近では、希望ヶ丘駅前を歩くと氷川きよし並みに叔母様方に手を振られ、子供達にも友達のようにフルネームで呼ばれ、あまり昼間には駅前を歩くことができなくなりました。外来はまだ数カ月しか経過していないので、慣れない面も多いですが、諸先輩方より学んだ医療を患者さんに提供できるよう笑顔で頑張っております。おかげで作り笑顔？がかなり上達しました。

開業してみるとすべてが自己責任となり、今まで医局に頼りっきりであったことを再確認しました。特に日帰り手術をしているため、手術時はかなりプレッシャーがかかります。でも手術時の緊張感がとても心地良いですし、手術予約がとても多いため今後も継続していきたいと思っております。

今後も日々努力し、患者さんのため・自分の病院に関わるすべての人々のため・さらには自分自身のために頑張っていきたいと思っております。まだまだ医局にはご迷惑をお掛けすると思いますが宜しくお願い致します。

医局便り

スキューバダイビングと

耳鼻咽喉科

北島耳鼻咽喉科医院 北島 明美

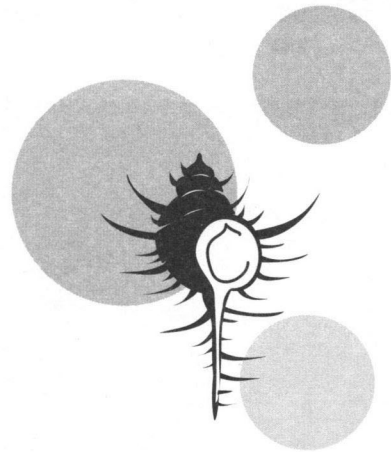
スキューバダイビングは近年ポピュラーなスポーツとなってきた。人間が器材をつけることにより、海中・海底の世界を垣間見られることの魅力は大きい。

ダイビングが浸透する一方で、それによる事故の報告も増えてきている。耳抜きトラブルにより、中耳炎や外リンパ瘻を起こすこともある。潜降や浮上の際に副鼻腔に圧障害を起こすトラブルも少なくない。私自身、学生の頃初めてダイビングをした際にサイナスブロックとなり当耳鼻咽喉科外来にお世話になったことがある。私が定期購読している某ダイビング雑誌で内科医が医療相談を行うコーナーがあるのだが、耳鼻咽喉科関連事項に関して明らかに誤った知識が度々書かれており驚く。ダイビングトラブルの約8割が耳鼻咽喉科関連と言われ、この分野で我々の果たす役割は非常に大きい。

私はPADIというダイビング団体のインストラクターの資格を昨年取得した。取得までの道のりは長く、まさしく修行であった。しかし試験に合格するまでの過程で、初心者がどのようなトラブルを起こしやすいのか等をより深く理解することができた。この経験を日常の医療に役立てたいと思い、外来でダイバーの診察を始めた。退職前は当院の外来で診察させて頂いたが、退職後は北島医院で継続している。ダイビングをこれから始めようとする

る人に対する評価や、トラブル患者の診察をはじめ、某ダイビングスクールのインストラクターおよびダイバー数十人を対象にダイビングに関するアンケート調査も行った（当院倫理委員会にて承認を得ている）。

ダイビングを理解する上で重要な減圧症にはタイプⅠ～Ⅲがある。内耳型減圧症という概念もあるが残念ながらその要因に関する明らかな研究はなされておらず、IFのある雑誌での論文も非常に少ないのが現状である。まだまだ未研究の部分も多いが、耳鼻咽喉科医が積極的に関わらねばならない分野だと思う。



医局便り

横浜総合病院 平野 佳美

私事ではあるが、出産に向け10月より休職中である。

[女性は妊娠すると体調不良を理由に突然休みがちで、その分仕事が増える周囲は、はなはだ迷惑である。さらには産休・育休と仕事を休みながら給料をもらうとは不公平ではないか。]

先日、偶然目にしたインターネット上での意見である。心無い、同感だ、さまざま議論が交わされていたが、当事者としては身につまされる思いであった。

確かに、妊娠中の体調は非常に不安定である。周囲に迷惑をかけていることは、本人が一番承知しているが、自身のやる気や心がけだけではどうにもならないことがさらに自己嫌悪に陥らせる。かくいう私自身も辛いつわりを経験し、嘔気が落ち着いてからも全身倦怠感、動悸など、すっきりしない状態での仕事を余儀なくされた。

幸い、休業が必要な程の大きなトラブルはなく、流行りの新型インフルエンザに普段以上に不安を抱きつつも、無事に産休までこぎつけることができホッとしている。ひとえに、周囲の皆様のおかげと感謝している。特に、部長の赤澤先生には手術や夜間急患センターの当直業務の交代を快く引き受けて頂き、医局長の宮本先生には年度途中での人事交替につ

いて対応して頂き大変有難かった。

また、出産後も仕事を続けたいという希望を、出向先の横浜総合病院にて産前・産後休暇、育児休暇を取得するという形で聞き入れて頂いた。このようなケースは医局にとっても横浜総合病院にとっても初めてだそうだが、耳鼻科医局において、女性医師の新しい選択肢を広げるきっかけとなればと願っている。

育児休暇を終え職場復帰が叶っても、保育園の送迎と勤務時間との兼ね合い、子供の急病のときの対応など、周囲のご理解・ご協力なしには乗り越えられない問題が数多く予想されるが、医局の先生方とよく相談しながら、できる限りご迷惑をかけないように最大限の努力をしていきたいと考えている。



OB通信

私的履歴

井澤耳鼻咽喉科医院 小松崎 靖

みなさま、ご無沙汰しております。

医局を辞し、あつという間の7年でした。

多くの諸先輩方も感じておられることと思いますが、開業を決意し、耳鼻咽喉科外科医としてメスをおくことはそれ相当の覚悟とむなしさを乗り越える、ある種の勇気とポジティブなエネルギーが必要で、開業後はそのエネルギーをどちらかといえば趣味に傾注してしまっただけは、もはや本来の仕事よりもそちらに情熱を注ぐことが多くなってしまいました。

これまでの7年間の“私的”履歴を振り返ってみることにします。

1. 開業2年目で、これまでとんと縁のなかった“マリン系”にあこがれ、まずは船だ、と思い立ち、約半年かけて小型船舶1級の免許をとりました。昨今では法の改正もあり、免許も随分と“楽”にとれるようになったようですが、当時は筆記、実技試験ともに“難関”で、休みの日は講義、実地訓練に明け暮れる日々でした。免許をとった当初は嬉しさも相まってそこそこ操船して横浜港や東京湾などの海上散策を楽しんでいましたが、今やほとんどペーパーとなってしまいました。

自分の船をもつには至っていませんが、夢はアクアラインの渋滞を横目でみながら東京湾を横断し、魚を釣りながら、海路で千葉の自分の畑に通うことです。食卓には自作の野菜と釣った魚が並ぶわけで、これぞ究極の自給自足ではないかと考える次第です。ハードルは高く、道のりは長い……。

2. 先日、日耳鼻の神奈川地方部会誌に投稿しましたが、Bossa Novaの仲間たちと年数回のライブを楽しんでいます。一昨年は日経新聞主催“おとなのバンド大賞”東京予選会に出場を果たし、昨年は東京ディズニースーでの25周年企画“Musician in the park”でのミニライブに出演することができました。最近では都内や横浜近辺でゲリラ的にライブ活動をしています。友人たちのライブにお互いに行き来するのも楽しいものです。

3. 以前からオーディオには興味がありましたが、私の場合、高級なアンプやスピーカーには余り興味がなく、専ら自作アンプやスピーカーの製作にいそしんでいます。開業後組み立てたアンプは6台になりました。ほとんどが真空管アンプですが、時に半導体アンプやデジタルアンプなどを組み立てて、あれやこれや、聞き比べてみるのも楽しいものです。

これら自作のアンプ、スピーカーで聴くレコードの音はまた格別です。Bossa Novaのレコードもなかなか入手しづらいものですが、ヒマがあると横浜や東京のレコード店に出没し、稀少盤の“宝さがし”をするのもまた楽しいものです。

4. バンドの趣味から派生した“宅録”にはまり、録音機材を買い集めているうちに、いつの間にか機材だけは“ハイエンド”のものが揃ってきてしまいました。“よい音で録音する”という指向は、ある意味麻薬のようなもので、もっといい機材を使ったら、もっと素晴らしい音で録れるのではないかと、という妄想としばしば戦わねばなりません。

本来であれば演奏の技術を磨くことがまず近道であることは承知していますが、そこは

スコアアップを目指してゴルフショップに足繁く通う練習嫌いゴルファーと相通ずるものがあるのだと確信しています。マイクやラブリアンプやらコンプだの言い出すとこれも誌面があつという間に埋まってしまうので割愛します。

自作CDをボサの友人たちと聴きながら盃を酌み交わすのはとても楽しいものです。市販のCDはデジタル音が溢れ、聴覚の退化が心配されますが、自作CDは“アナログ”にこだわっています。いつしか自作のアナログレコードの製作を夢んでいます。

5. 千葉に小さな畑をもち、じゃがいもやらタマネギなど育てています。畑の隣のおじさんが本業の農家の方で、鋤、鍬の使い方を始め、いろいろとご指導を賜っています。昨今はアクアラインの割引の影響で週末は渋滞することも多く、畑への足も遠のいてしまっています。結局雑草刈りばかりとなってしまう、維持の難しさを実感しています。

しかし収穫の喜びはまた格別で、大地の力強さ、深遠さに驚くことしばしばです。こどもたちとのコミュニケーションの場としてもしばしば有効なようです。

6. 毎週木曜日の休診日には開業当初からテニス教室に通っています。下手糞も7年も経つと少しは球が打ち合えるようになってくるものです。始めるまでテニスがこんなに厳しいスポーツとは知りませんでした。テニスを通じた友人も増え（ほとんど年上のおばさんばかりですが）、これもまた楽しみです。

長女は中学の部活動でテニスをしており、最近一緒に打ち合うようになりましたが、すぐに父親の権威は失墜してしまうことを実感

しています。

7. 同じく木曜日の夕方に少年柔道教室でコーチを始めて早6年が経ちました。自分の教え子たちが出場する試合を間近で観戦するのは痺れます。負けた子の悔し泣きに思わずもらい泣きをしてしまいます。この年になって柔道着を着れる幸せを感じています。

8. 自分の子供は長女以外柔道には興味を示さず、野球漬けの日々を送っています。長男は高校で軟式野球を、次男は地元の地区のソフトボールチームのキャプテンをしています。週末に球場に応援に赴くことも多くなり、これもまた楽しみです。

最近父親とのキャッチボールもかなり力を抜いて相手をしてくれるようになりました。それでもちょっと力を入れて投げられてしまうと、普通のグローブでは手が痛く、指を痛めてしまう危険性もあり、かねてから憧れていたプロモデルのキャッチャーミットを先日購入し、連日オイルを塗り込んでいる最中です。今度はプロテクターが必要かと本気で考えています。

どれも中途半端ではありますが、私は“広く浅く”が信条なので、どれも趣味をきっかけに知り合った友人たちに美味しいところだけ頂いて楽しませてもらっています。

今度はどんな新しいことに手を出そうか、日夜画策しているところです。

平成21年10月

近況報告

西野耳鼻咽喉科 西野 裕仁

「より良い医療」を提供するという抽象的な目標を達成するために、診療所を数値化して自己評価しています。

図1は厚生労働省が公表している耳鼻咽喉科の全国平均月レセプト件数(H13~H17の平均±2SD)に自院データを重ねたグラフです。診療所をヒトに例えると、レセプト件数(月)は身長、診療報酬は体重と考えています。身長は高ければ高いほど良いけど、体重が重たくなりすぎないように注意をしています。次はレーザー件数や患者層などの項目を運動能力のように評価しながら高めていきたいと思っています。

医院の成長は自身の研鑽なしにありません。今年は大橋客員教授にチャンス頂き、耳科学会で発表させていただきました。自分の知識が専門医取得レベルで停止するのを防ぐには、学会に参加するのが大切だと痛感しました。また小金井市医師会から、学校保健担当理事として働く機会を頂きました。最近、校長先生や市役所と連携して学校における新型インフルエンザ対策を行いました。世の中のために働くのも、「より良い医療」だと視野が開けました。

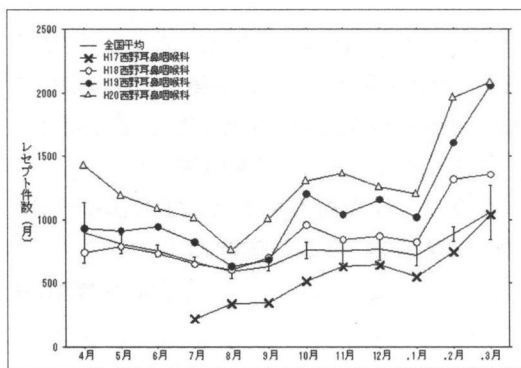


図1

その流れで、東京学芸大学の養護教諭学部の非常勤講師に推薦をいただきました。若輩の自分には大役すぎますが「出来ないのに、やらないだけだと言いつける」より「やってみただけど、出来ませんでした。」の方が自分らしいと思ひ引き受けました。やってみると解剖学や生理学の勉強をやりなおす良い機会に恵まれました。Gray's Anatomy of the Human Bodyのオンライン版がyahooで公開されており、1217個の解剖図が無料で活用できるのに驚きを感じました(図2)。

いろいろな事に積極的にチャレンジをしている日々です。同じようなことをされている諸先輩方にアドバイスを頂きたく近況報告をさせていただきました。

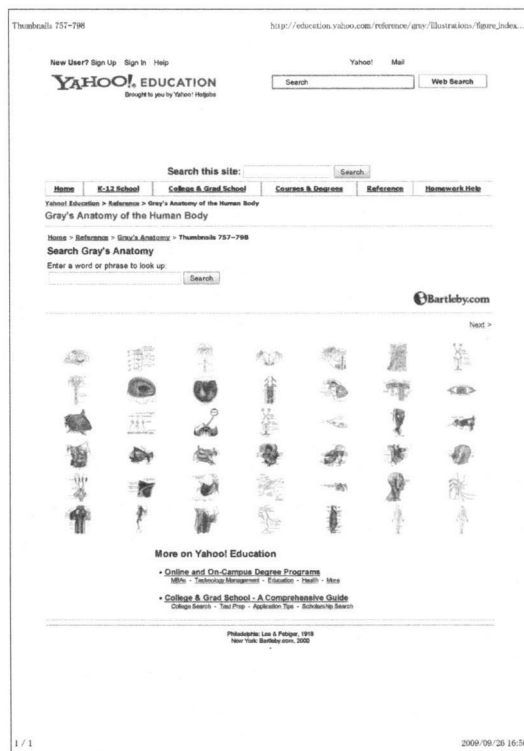


図2

ナゴヤより愛を込めて

服部耳鼻咽喉科医院 服部 康介

月日が経つのは早いもので、大学を退職してもう2年が過ぎました。9月に父の3回忌を済ませ、少々ホッとしているところです。父の後を継いだ医院は何とか潰さずにやっております。横浜で育ち川崎で医師となった私にとって先輩、仲間と呼べる人は全て関東に在り、開業当初は何とも不安な気持ちでおりました。しかしながら私の父や祖父の代からの患者が今でも受診してくれ、「あんたの爺さんには世話になった。」やら、「お父さんに鼓膜を貼ってもらった。」などと言われると、名古屋に来て良かったのかな、と少し救われるような思いがします。

当院は父の代から午後6時に終了します。車で10分走ると名古屋港があるので、時々仕事の後に釣竿を持ってセイゴやクロダイに遊んでもらいに港に出かけます。土日祝日の休診日には、家内や子供達を連れてよくドライブに出かけます。2～3時間も走ると、北は琵琶湖や日本海、西は伊勢志摩、奈良、京都。東は三河湾、浜名湖、信州。南には知多半島がありますので遊ぶ場所に事欠きません。肉、魚、野菜など横浜で暮らしていた時にはなかなか手に入らなかった美味しくて新鮮な食材が、いとも容易く手に入ります。

名古屋に来てから良いことや楽しいことが一杯ですが、今の生活で足りないと思うこともあります。仕事で言えばやはり手術が出来なくなったことです。チュービングや鼻茸切除、口唇嚢胞程度なら外来で行っていますが、術後に管理が必要なものは当然できません。あの、術中の緊張感や術後の達成感は、他のどのようなことでも今は感じる事ができません。そしてもう一つ、やはり先輩方や仲間が近くにいないことです。仕事の合間に交わす他愛の無い雑談や一緒にとる昼食や夕食。つま

らないことかもしれませんが、無くなってみるととても大切なことだったんだなあと、つくづく思います。

大学や関連病院、派遣病院で働いておられる先生方は、本当に多忙で過酷な毎日を送られていることと思います。どれだけ心や体に大きな負担が掛かっているのかは察して余りあるものがあります。しかしながら、大学や病院にいるからこそ出来ることや、喜びもあるんだということをどうか思い出して毎日の励みにして頑張ってください。



新入医局員紹介

耳鼻咽喉科に入局して

齋藤 善光

今年度、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科に入局しました齋藤善光です。

父が岩手県で耳鼻咽喉科を開業していることもあり、幼い頃から耳鼻科領域に興味があり、入局させていただきました。

現在は横浜市西部病院にて、岡田部長・矢野先生・春日井先生にご指導を仰ぎながら、主に病棟管理・週2回の外来・扁桃摘出術を中心とした手術をやらせていただいております。

実際に外来診療をしてみると、診断・治療・検査方法、患者への対応の仕方など疑問点だらけで、また、異物摘出・鼓膜切開等の手技に対しても技術的・経験的不足が大いにあり反省を繰り返す毎日が続いています。10月よりは本院にて一人当直をしておりますが、常に不安を抱きながら恐る恐る夜間救外来を診療している状況です。

手術においては、いかに耳鼻科領域の手術が細かく、そして、危険を伴うものであるかということを感じながら、少しでも多くの技術を学ぼうと努力しております。

まだまだ不甲斐ない一面が多々あり、諸先生方にはご迷惑をおかけする事となると思いますが、今後共ご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会会則

第1章 総 則

第1条 (名 称)

本会は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会(四門会)と称する。

第2条 (事務局)

本会は、事務局を聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室内に置く。

第2章 目的および事業

第3条 (目 的)

本会は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室の進歩発展と学術事業に対する援助を行うとともに、会員相互の学術研鑽並びに親睦を図ることを目的とする。

第4条 (事 業)

本会は、前条の目的を達するために、次の事業を行う。

- (1) 学術研究会および講演会等の開催
- (2) 総会および親睦会の開催
- (3) 四門会誌・名簿・その他出版物の発行
- (4) 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室の後援
- (5) その他、本会の目的を達成するのに必要な事項

第3章 会 員

第5条 (会員)

本会は、次の者をもって会員とする。

- (1) 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室在籍者
- (2) 聖マリアンナ医科大学関連教育病院耳鼻咽喉科在籍者
- (3) 本会の目的に賛同し会長あるいは理事会において承認された者

第6条 (会員の入退会手続)

- (1) 本会に入会を希望するものは、所定の申込書に年会費を添えて本会に提出し、理事会の承認を得なければならない。
- (2) 前条(3)項に該当する者は、会長あるいは理事会の推薦を得た後、所定の申込書に年会費を添えて本会に提出し、総会で承認を得なければならない。
- (3) 本会の退会を希望する者は理事会の承認を得なければならない。

第7条 (会 費)

- (1) 会費は細則に定めるところにする。
- (2) 会費は前納とする。

第4章 役 員

第8条 (役員)

本会は会長1名、副会長1名、理事数名、事務局長1

名、監事2名を置く。

第9条 (役員の任期)

- (1) 本会の役員の任期は、原則としてその都度議を得るものとする。ただし、再任を妨げない。
- (2) 役員に欠員が生じた場合、補欠役員がその職務を行う。
補欠役員の任期は、前任者の残任期間とする。
- (3) 役員は、その任期満了後でも後任者が就任するまでは、その職務を行う。

第10条 (役員の職務、権限)

- (1) 会長は本会の代表し、会務を総括する。
- (2) 副会長は会長に支障が生じた場合、その職務を代行する。
- (3) 理事は理事会を構成し、この会則に定めるものその他、本会の業務を議決し、業務を執行する。
- (4) 監事は本会の業務ならびに会計を監査する。
- (5) 事務局長は理事会のもとに事務局を統括し、会務の遂行にあたる。

第11条 (役員の選任)

- (1) 理事および監事は会員により推薦され、理事会の議を得て、総会にて承認得たものとする。
選出の方法は細則による。
- (2) 理事の中に推薦理事と名誉理事を置き、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室代表教授をこの推薦理事とする。また、教授退任後は名誉理事とする。
- (3) 会長、副会長は理事の互選とする。
監事は理事および事務局長を兼ねることはできない。

第5章 会 議

第12条 (総会)

- (1) 総会は年1回会長が理事会の議を経て、これを召集する。
- (2) 総会は会員の3分の1以上の出席(委任状を含む)をもって成立する。
- (3) 総会において会長は議長とし、事業計画ならびに収支予算についての事項、事業報告および収支決算についての事項および本会の運営に関する重要事項の承認を受けなければならない。
- (4) 総会の議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が定める。
- (5) 会長が必要と認めた場合、あるいは会員の要望がある場合において、会長は理事会の議を経て、臨時総会を召集することができる。

第13条 (理事会)

- (1) 理事会は会長がこれを召集する。
- (2) 理事会は現理事数の3分の2以上の出席(委任状を含む)をもって成立する。
- (3) 理事会において会長は議長となり、本会の事業を企画し、必要な一切の事項を審議し運営する。
- (4) 理事会の議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が定める。
- (5) 監事は理事会に出席し意見を述べることはできる。ただし、票決に加わることはできない。

第6章 事務局

第14条 (事務局)

- (1) 本会の一般業務を処理するために、本会の事務局内に事務局を置く。
- (2) 事務局の構成は事務局長1名、事務局員若干名とし、選出方法は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室医局に一任する。
- (3) 事務局長は理事会に出席する。

第7章 会計

第15条 (本会の経費)

本会の経費は会費、寄付金、その他の収入をもってあつてゐる。

第16条 (会計年度)

本会の会計年度は毎年10月1日に始まり翌年9月30日に終える。

第8章 会則の改正

第17条 (会則の改正)

本会則を改正するには理事会の審議を経て、総会の出席者の3分の2以上の議決を得なければ変更することができない。

第9章 その他

第18条 (その他)

本会則を施行するに必要な細則を別に定める。

<附則>

第19条 (本会則の発効)

- 本会則は平成9年12月1日から発効する。
本会則は平成12年12月3日から発効する。
本会則は平成16年11月28日から発効する。
本会則は平成18年12月3日から発効する。

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会細則

第1条 本細則は会則第18条によりこれを定める。

第2条 (会費)

- (1) 会費は年会費とし、次のごとく定める。
 - ・聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室および同関連教育病院現医局員の会員は年額5,000円
 - ・その他の会員は年額10,000円
- (2) 70歳以上の会員に対しては理事会の議を経て、会費及び同門会参加費の免除を行い、名誉会員とする。

第3条 (役員を選出)

- (1) 役員の数、理事15名以上、監事2名とする。
- (2) 選出方法は理事会に一任する。
- (3) 会長および副会長の選任は理事の互選による。

第4条 (慶弔)

会員にかかる慶弔は理事会に一任する。

<附則>

第5条 (本細則の発効)

- 本細則は平成9年12月1日から発効する。
本細則は平成11年11月28日から発効する。
本細則は平成12年12月3日から発効する。
本細則は平成16年11月28日から発効する。
本細則は平成17年12月4日から発効する。

第12回四門会理事会議事録

平成20年12月7日

【出席者】

肥塚、竹山、加藤、大橋、菊地原、岩澤、芋川、
上杉、中島、南、渡来、佐々木、新谷、佐藤、
岡田、飯田、黒田（順不同敬称略）

【欠席者】

荻野、大竹、小野、関、高橋、戸田、越智、
石倉、服部、堤、佐久間、渡辺、宮部、岩武
（順不同敬称略）

1. 会員数内訳（平成20年12月7日現在）

総会員数；126名

うち現医局員34名、名誉会員5名

2. 会員異動

木下 裕継 平成20年3月 退職

3. 新入会員

佐々木祐幸 平成20年4月

4. 退会会員

なし

5. 会計報告(平成19年10月～平成20年9月)

平成18年度繰越金	¥ 1,125,558	
	収入	支出
平成19年度会費	¥ 780,000	
四門会誌第15号広告掲載費	¥ 100,000	
四門会誌第15号印刷費		¥ 420,000
集合写真(日当込み)		¥ 68,300
レコーダー代		¥ 16,780
振込用紙印字サービス		¥ 400
振込み手数料		¥ 210
利息	¥ 1,430	
	¥ 881,430	¥ 505,690
次年度への繰越金	¥ 1,501,298	

6. 平成21年度役員人事

平成21年度 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科
学教室同門会役員

会 長 肥塚 泉

副会長 菊地原基敬

推薦理事 肥塚 泉

名誉理事 荻野洋一、竹山 勇、加藤 功、
大橋 徹理 事 飯田 順、岩澤 寛、岩武博也、
芋川英紀、上杉恵介、越智健太郎、
小野泰三郎、勝見直樹、
菊地原基敬、木下裕継、
剣持 睦、小松崎靖、佐久間惇、
佐々木祐幸、佐藤成樹、新谷敏晴、
関 良武、高橋 姿、堤康一郎、
中島博昭、西野裕仁、服部康介、
南 定、宮部 聡、渡辺昭司、
渡来潤次

監 事 石倉幹雄、岡田智幸

事務局長 黒田寿史

敬称略、50音順

7. 四門会賞

平野 佳美先生

8. 平成21年度総会日時

平成21年12月6日（日）

9. その他

・理事辞職

大竹英夫先生、戸田行雄先生から理事辞職の申し出があり、理事会で承認された。

・新規理事

佐々木祐幸先生、剣持睦先生、小松崎靖先生、
西野裕仁先生の理事推薦があり、理事会で承認された。

・役員人事に関して検討委員会を設けて検討することとなった。

《検討委員》

肥塚 泉先生（会長）

渡来潤次先生（副会長）

岩澤 寛先生（OB）

南 定先生（OB）

勝見直樹先生（OB）

堤康一郎先生（医局）

岡田智幸先生（医局）

医局長（医局）

編集後記

インフルエンザについて

インフルエンザは、オルソミクソウイルス科に属するRNAウイルスであり、ウイルス内部にある核タンパク質 (NP) とマトリックスタンパク質 (M1、M2) の抗原性によりA、BおよびC型に分類される。このうち、A型がもっとも病原性が高く、1918年から1919年に流行したスペインかぜと今回のブタインフルエンザとを含めてこの100年で5回、過去に大流行を起こしてきた。スペインかぜ (Spanish influenza; 何故スペインかぜというかは、日本人の発想では分かりかねるが、英語の慣例的に、「影響するもの、悪いものはSpainにある」ようだ。エリザベスI世時代のスペイン無敵艦隊しかり、スペインかぜ、そして1970年代には、「スペインには行くな」"Never into Spain" という Three Dog Nightの曲もある。) 2000万人が1年の間に全世界で亡くなり、日本でも38万人の犠牲者が出たとされている。

2009年4月都内の学校では学級閉鎖が続き、インフルエンザが大流行していた。その後、メキシコ (スペイン語圏のメキシコが流行の発端というのも面白いが、ただし、笑い事ではない) からブタインフルエンザのニュースが飛び込み、あっという間に、pandemicである。我が国でも既に34万人の感染者がいる。4月の都内の流行とブタインフルエンザとの関連は、論議されていない。新型トリインフルエンザの脅威を啓発して、家畜のブタインフルエンザを軽視していたのは、研究者の怠慢か、それともインフルエンザワクチン接種の義務化を無くす結果と同様にマスコミの情報操作なのか。トリインフルエンザが有名になる以前の教科書では、A型ウイルスは**ブタ**、**トリ**、**ウマ**、**アザラシ**、**クジラ**などの宿主に広く存在するとある。10月19日より新型ブタインフルエンザワクチンの医療従事者への接種が始まるが、果してその効果はいかに？

耳鼻科で風邪がうつるといふ風評もあり、インフルエンザの流行しているこのところ、患者さんの数が減少している施設もあるようだが、1967年のNatureにも掲載され、古くからアレルギー性鼻炎や喘息の治療薬として使用され、安全性が確立しているクロモグリク酸ナトリウム (インタール[®]) は、1995年以來「風邪をひかなくなる」、「抗ウイルス作用」、「抗インフルエンザウイルス作用」等の論文がある。ワクチン接種効果が不確定で、オルセタミビル (タミフル[®]) に耐性株がある現在、薬理作用の全く異なるこの点鼻をワクチン接種までの待機期間中そしてその後においても使用してみる価値があるのではないか。

(文責: 岡田 智幸)

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会

「四門会」第17号

平成21年11月発行

発行 聖マリアンナ医科大学
耳鼻咽喉科学教室同門会
電話 044 (977) 8111 (代)

制作 株式会社 教育広報社

